

日本地球電気磁気学会会報(第1号)

1962年6月15日

F37

日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区弥生町 3

東京大学理学部地球物理学教室内

電話(812) 2111 内線 6476

振替 東京 4 8 6 0 番

序言：日本地球電気磁気学会が新しい組織になり、事務所が東京大学理学部地球物理学教室内に移りましてから一年近くになります。この間東京における事務も漸く軌道にのりかけてきました。これから年四回ぐらいの割合で会員の皆さまにいろいろと情報をお知らせする趣旨で会報をお配りしたいと思っています。尚学会会計が楽でありません上に事務の手間を省くために、なるべく英文会誌をお届けする折とか、次回学会開催通知をさしあげますような機会を利用して同封したいと思います。会報は御都合で講演会や総会・懇親会に出席できませんでした方々には特にお役に立ちますことと思います。

第31回講演会および総会：先に皆様にプログラムをお配りしました通りの日程にて盛会裡に終了しました。なお講演予稿集の残部が少々ございますから、御希望の方には先着順に1部150円でお送りいたします。

総会に於ける主な議題 (会計及び会誌出版関係を除く)

1. 学士院会員候補として長谷川万吉名誉委員長を推薦することが承認されました。
2. 本年9月にペルーにおいて *International Symposium on Equatorial Aeronomy* が開かれるので、永田委員長と前田(憲)委員とに出席者推薦を一任した。
3. 学術会議会員候補推薦の件、本年末が日本学術会議会員選挙の時期に当たっています。総会での一般的討論では、次のような意見であった。現在学術会議で扱う諸問題のうちには地球物理学関係の国際協同研究や国内研究推進態勢協議に関する件がかなりの比率を占めて居り、当学会関係のこともかなり含まれている。従って本学会関係者のためあるいは地球物理学研究者のために学術会議において活躍して下さる方を選出して

(2)

おきたい。具体的に永田現委員長が出て下さるお気持ちになっていただきたいとの声も出たが、委員長はそれに対して、なにも地球電気磁気学のためのみならず広い視野に立って地球物理学全体のために働いてくれる会員を出してあればそれでよいのではなからうかと答辯された。結局、選挙に際しての推薦の手続、他学会との連絡など具体的な問題もあるので、各会員が発言されたいろいろな意見を参考にして運営委員会が具体案を適当な時期に考えることとなった。

4. 田中館賞は今回は下記の如く二名の会員がそれぞれの論文に対して受賞の光栄に浴しました。

第30号 和田雅美 宇宙線中間子強度の大気効果

第31号 小口 高 極光帯における地磁気・極光・電離層変動の相互関係

5. 次回開催地 本年秋は地磁気観測所の世話で柿岡において第32回講演会および総会が開かれることになりました。

新入会員紹介 昨秋の福井大会後に新たに会員になられた方々は次の14名です。(敬称略)

中谷茂(東京理大), 渡谷邦彦(鳥取大), 浦部信義(東京, 岩波書店)

竹沢賛三(教育大光研), 荒木徹(京大理, 地物), 川尻轟大(電波研)

I. Özdoğan (Turkey), S.L. Malurkar (India/U.S.A.),

E.H. Vestine (U.S.A.), J.F. Landau (U.S.A.), F.N. Glover (Philippines),

S.A. Vincenz (U.K/U.S.A.), J.W. Dungey (U.K.), S. Balakrishna (India)

会誌 Journal of Geomagnetism and Geoelectricity 発刊状況 会誌発行が予定よりおぐれていて各会員に御迷惑をおかけしていますが、遠次遅れを取りもどすよう努力しています。Vol. XIII, Nos. 1-2 は出来上り配布にかかっており、引きつづき Nos. 3-4 が間もなく出来上ります。Vol. XIV は No. 1 は既に印刷所に渡されており、No. 2 は現在編集中です。

会費納入と会誌配布の関係について Vol. XIII は昭和36年度会費を納入された方々に配布いたしています。昭和35年度会費に対しては Vol. XII を、昭和34年度会費に対しては Vol. XI をというように配布いたしていましたので、もし昭和35年度会費を納入された筈なのに Vol. XII の全部もしくは一部が届いて居りませんでしたら、本会事務所まで御一報下さい。昭和36年度分会費未納の方には、会費受領次第新刊誌をお送りいたします。昭和37年度会費に対する雑誌配布は今秋からになります。また会員になられる前に発刊された会誌を御希望される現会員の方々には、Vol. XII は800円、Vol. XI 以前

のものは各 Volume について 500 円（即ちその時の年度の会費相当額送料不要）にてお譲りいたしますから事務所まで御申込下さい。なお既に品切れとなった号については、マイクロフィルムにてお送りしていますことを御承知下さい。

会計報告 昭和36年度会計報告は

収入 627,856 円（前年度繰越金 223,061 円，正会員会費 107,534 円，準会員会費 138,593 円，賛助会員会費 0 円，文部省助成金 100,000 円，預金利子 5,123 円，予稿集売上げ 20,720 円，別刷代 32,825 円）
 支出 627,856 円（国際会議準備金 35,000 円，第29回総会費 30,560 円，第30回総会費 30,225 円，会誌刊行費 255,808 円（2冊分），雑印刷費 7,725 円，通信費 40,725 円，消耗品費 8,136 円，学会連合費 2,000 円，次年度繰越金 217,677 円）

であります。会則により総会では昭和37年度予算審議が行なわれ、次のような案が承認されました。

収入 1,067,677 円（前年度繰越金 217,677 円，正会員会費 120,000 円，準会員会費 150,000 円，賛助会員会費 150,000 円，文部省助成金 100,000 円，預金利子 5,000 円，予稿集売上 25,000 円，別刷代 300,000 円）
 支出 1,067,677 円（第31回総会費 30,000 円，第32回総会費 30,000 円，田中館先生10周忌 1,000 円，会誌刊行費 840,000（8号分），雑印刷費 10,000 円，通信費 30,000 円，消耗品 20,000 円，学会連合費 2,000 円，事務員給与 60,000 円，其他 44,677 円）

会計担当者の報告によりますと、昭和36年度は学会財政が苦しいため、事務員給与も遠慮し、また郵送料、対外連絡通信費などの面において他から財源を求めて対応したとのことです。昭和37年度予算においても他からの財源を求めなければ運営は困難で、上記収入及び支出予算では足りませんとのことです。とくに昭和37年度は英文会誌発行の遅れを取り戻すために最大の努力を払いますので尚更のことです。委員長はじめ事務所では学会の財政を少しでも楽にするために、従来の J.G.G 誌を寄贈していた外国の機関や研究者に窮状を訴えて会員なみの割引値にて購入してもらったり、あるいは会員になっていただいたり、新たに入会されることを多くの方々に勧誘したりして努力を重ねています。各会員におかれても、正会員勧誘のかたわら賛助会員獲得に御努力いただければ幸甚と存じます。よろしく会員各位の御協力をお願いいたしたく存じます。

(4)

Journal of Geomagnetism and Geoelectricity 投稿論文募集要項および別刷代に関する新規約

投稿論文の数がいままで多くなくて会誌刊行の遅れを出す一原因になっていましたことは事実です。春秋の学会の折には毎度盛り切れぬ程の講演申込がありますのに、一応論文として書き上げられるものの数が少いということは私達が十分に反省すべきことで、会員各位の積極的な投稿をお待ちしています。投稿原稿は本会編集委員会(事務主任：小口高)あてお送り下さい。編集委員会で所定の手続をふんだ上先着順に印刷にまわします。なお出版に際しては、ページチャージは原則として各投稿者からは徴集しない(但し出版費援助として投稿者またはその所属機関が適当に醸出し得る場合には援助をいただきたい)こととし、別刷代は一律に1部あたり印刷紙面1頁について4円をお願いすることになりました。従来より投稿者への負担を軽減するよう努力しましたので奮って御投稿下さるよう心がけて下さい。

追記 下記の方々より本年度賛助会員になられる申出がありました。

弓削田 静平 (協立社々長, 福島会員紹介)

澤間 秀雄 (光文堂代表, 福島会員紹介)